

---

2020年度決算 及び  
2021年度業績見通し

---

説明資料

帝人株式会社  
2021年5月11日

# 帝人グループ業績（販売）へのCOVID-19影響

2021年2月の見通し\*公表時における想定通りの回復

\* 2021年2月8日公表

時期	業績影響（前四半期対比）	具体的影響
第1四半期 (4-6月)	期初公表対比落ち込み幅大	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米自動車Tier1事業は当初OEM生産大幅減による影響を大きく受けたが、四半期後半は回復傾向</li> <li>より川上に近い素材関連分野では前半はサプライチェーンにおける在庫確保のための需要があり、後半に影響が遅れて発現</li> </ul>
第2四半期 (7-9月)	急速な回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米自動車Tier1事業は急速に回復</li> <li>航空機向け需要はさらに減少</li> <li>医療用防護具（ガウン等）は大きく業績に貢献</li> </ul>
第3四半期 (10-12月)	[2Q公表対比] 回復傾向は想定よりやや強まる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車を中心に回復傾向が継続</li> <li>航空機向け需要は低迷が継続</li> <li>医療用防護具（ガウン等）の業績貢献は限定的</li> </ul>
第4四半期 (1-3月)	[3Q公表対比] 想定通りの回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車向け中心に全般的に回復傾向が継続</li> <li>航空機向け需要は低迷が継続</li> <li>医療用防護具（ガウン等）の業績貢献は僅少</li> </ul>

## 主要市場別動向（2020年度～2021年度）

市場	主な事業	主な地域	2020年度実績	2021年度見通し
自動車	アラミド 複合成形材料	欧州 米国	米国のSUV/ピックアップトラックは2Qで急回復、欧州も2Q以降回復し回復基調が継続	2019年度レベルには到達しないものの、回復継続 <sup>*1</sup>
航空機	炭素繊維	欧州 米国	航空機需要が大幅減少	航空機需要の低調が継続するも回復方向へ <sup>*2</sup>
ヘルスケア	医薬品 在宅医療 新規ヘルスケア	日本	主力医薬品の販売や在宅医療機器のレンタルは堅調	医薬品の薬価改定あるも糖尿病治療薬の貢献もあり堅調維持 <sup>*2</sup>
医療用防護具 (ガウン等)	繊維・製品	日本	逼迫した医療現場への早期大量供給実施 3Qで必要量が概ね充足	官需は収束
IT	IT	日本	巣ごもり需要で電子コミック配信サービスが拡大	拡大基調が継続 前期4Qに海賊版サイトの影響が顕在化するも上期で収束 <sup>*2</sup>

## 今回公表のポイント

### ■2020年度実績

- COVID-19の影響を受ける中、EBITDAは前年度並みを確保、営業利益も前年度対比2%減の549億円で着地
  - 繊維・製品における医療用防護具（ガウン等）の供給や好調なITが業績に寄与
  - ヘルスケアも薬価改定影響を受ける中で底堅く推移
  - マテリアルにおいて自動車用途や航空機用途を中心とした需要低下の影響あり
- 当期純利益は、航空機需要が長期に亘って低迷するとの見通しに基づき、炭素繊維事業の固定資産に係る減損損失を計上した影響等により、67億円の当期損失
- 当期赤字の中でも配当は前年度対比▲10円の年間50円/株

### ■2021年度業績見通し・配当見通し

- COVID-19からの回復及び大型投資効果により、EBITDAは前年度対比大幅増、営業利益も同9%増の600億円の見通し
- COVID-19前の2019年度実績に対しても、売上高、営業利益、当期純利益ともに増加の見通し
- 年間配当は前年度からの増益見通しを反映し、5円増配の55円/株（配当性向：30%）を予定

- 
- 
1. 2020年度決算 P. 5
  2. 2021年度業績見通し・中期経営計画について P.13
  3. 参考資料 P.27

---

#### 見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2021年5月11日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

---

# 1. 2020年度決算

## ◆ 実績ハイライト [前年度対比]

- 売上高及び営業利益は、繊維・製品での医療用防護具（ガウン等）の供給拡大やITの貢献があった一方、マテリアルでの自動車・航空機用途の需要減、ヘルスケアにおける薬価改定影響があり、全体として微減収・微減益
- 当期純利益は、炭素繊維事業の固定資産に係る減損等により当期損失に

(単位：億円)

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する  
当期純利益

一株当たり配当金

[前年度対比]  
-2.0%

-2.3%

当期損失に

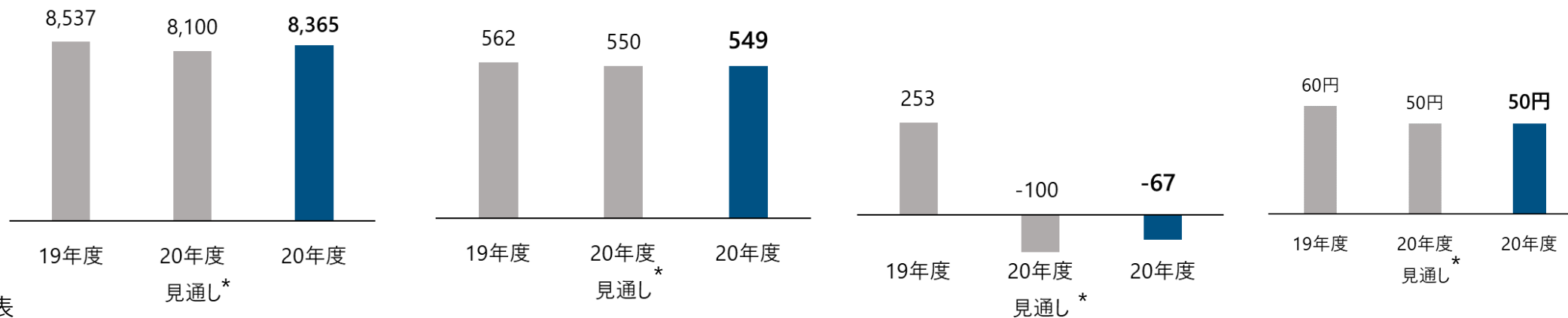
-10円

[見通し\*対比]  
+3.3%

-0.1%

赤字幅縮小

変更なし



\* 2021年2月8日公表

## ◆ 実績サマリー [前年度対比]

	(億円)			
	19年度	20年度	差異	増減率
売上高	8,537	8,365	-172	-2.0%
営業利益	562	549	-13	-2.3%
営業外損益	-19	-13	+6	-
経常利益	543	537	-7	-1.2%
特別損益	-128	-443	-315	-
税金等調整前 当期純利益	416	94	-322	-77.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	253	-67	-319	-

ROE <sup>*1</sup>	6.3%	-1.7%	-7.9%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	8.7%	8.6%	-0.1%
EBITDA <sup>*3</sup>	1,072	1,068	-4

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出

(\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

	(億円)			
	19年度	20年度	差異	増減率
設備投資 <sup>*4</sup>	686	603	-83	-12.1%
減価償却費	510	518	+9	+1.7%
研究開発費	345	327	-18	-5.1%

2020年度配当金：見通し<sup>\*5</sup>から変更なし

中間 25円/株 期末 25円/株 年間50円/株

(19年度：中間 30円/株 期末30円/株 年間60円/株)

## ◇ 為替・原油価格

	19年度	20年度	
PL換算レート	円/米ドル	109	106
	円/ユーロ	121	124
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	60	44	

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む (のれんを除く)

\*5 2021年2月8日公表



## ◆ マテリアルセグメント [前年度対比]

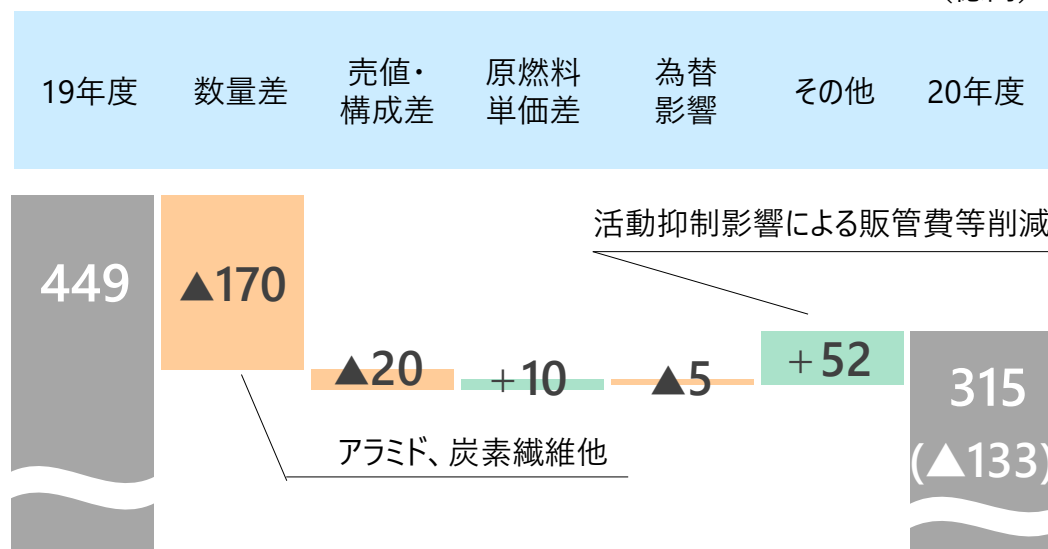
	(億円)			
	19年度	20年度	差異	増減率
売上高	3,275	2,970	-306	-9.3%
EBITDA	449	315	-133	-29.7%
減価償却費	290	306	+16	+5.4%
営業利益	158	10	-149	-94.0%
営業利益ROIC	5%	0%	-5%	

## COVID-19の影響大

- アラミド繊維
  - タイヤ補強材、摩擦材などの自動車関連や光ファイバーを含む用途全般において販売量が減少したものの、各市場の回復に伴い販売量も回復
- ポリカーボネート樹脂
  - 期後半にかけて販売量が回復し、通期では前期並みを維持
  - 主原料であるBPA市況価格が下期から高騰した影響を受けたが、販売価格改定を進めた
- 炭素繊維
  - 航空機用途において販売量が大幅に減少したため、風力発電用途やレクリエーション用途の販売を強化
  - 中間材料開発や北米炭素繊維新工場立上げ準備を継続
- 複合成形材料
  - 期初にOEM生産大幅減の影響を受けたCSP\*の自動車部品の生産・販売が、2QからはSUV・ピックアップトラックを始めとする米国自動車市場の急回復で大幅に改善
  - CSPにおいて工場稼働が回復する中で課題となっている従業員定着率改善のための対策を推進

## &lt; EBITDA増減内訳 &gt;

(億円)



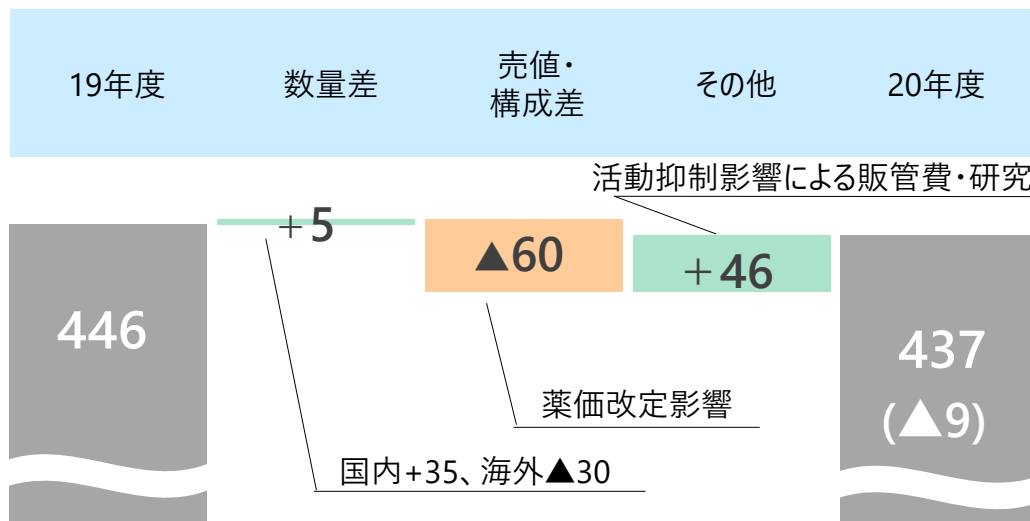
各事業において活動抑制による販管費等削減実施

## ◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比]

	(億円)			
	19年度	20年度	差異	増減率
売上高	1,539	1,487	-53	-3.4%
EBITDA	446	437	-9	-2.0%
減価償却費	120	122	+2	+1.3%
営業利益	326	315	-10	-3.2%
営業利益ROIC	41%	41%	-0%	

## &lt; EBITDA増減内訳 &gt;

(億円)



## COVID-19の影響は軽微

## ■ 医薬品

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」を中心に国内での2020年4月の薬価改定の影響を受けた
- 「フェブリク」や先端巨大症・下垂体性巨人症/神経内分泌腫瘍治療剤「ソマチュリン\*」の販売量は順調に拡大

## ■ 在宅医療

- 在宅酸素療法（HOT）市場において、病院内の感染回避のため在宅医療導入が選択されるケースの増えたことと携帯型酸素濃縮器の展開等により、レンタル台数が増加
- 睡眠時無呼吸症候群治療におけるCPAP市場において、COVID-19影響により入院検査数が減少し市場拡大が昨年より鈍化した。開業医向け市場が拡大し、レンタル台数増加が継続。また、遠隔モニタリング算定要件が緩和され、診療支援ツール「ネムリンク」導入施設が増加

## ■ ヘルスケア新事業

- 人工関節・吸収性骨接合材等の埋め込み型医療機器事業において、期初COVID-19影響による手術延期の影響があったものの、第2四半期以降は手術数の回復及び新製品の販売拡大あり

\* ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です

## ◆ 繊維・製品セグメント [前年度対比]

(億円)				
	19年度	20年度	差異	増減率
売上高	3,063	3,149	+86	+2.8%
EBITDA	124	239	+115	+93.0%
減価償却費	70	64	-6	-8.4%
営業利益	54	175	+121	+223.3%
営業利益ROIC	4%	14%	+10%	

## ◆ ITセグメント [前年度対比]

(億円)				
	19年度	20年度	差異	増減率
売上高	486	581	+95	+19.6%
EBITDA	87	113	+26	+30.5%
減価償却費	8	9	+1	+8.3%
営業利益	78	104	+26	+32.9%
営業利益ROIC	49%	66%	+17%	

## ■ 繊維・製品

- COVID-19拡大により需要が急増した医療従事者向け医療用防護具（ガウン等）の早期大量供給が、業績に大きく寄与
- 感染予防に向けた機能性マスクや、水処理膜向けポリエステル短繊維の販売が好調に推移
- 自動車関連部材は期後半にかけて回復が鮮明に
- テキスタイル、重衣料は苦戦するも、在宅需要にマッチした衣料品販売が堅調
- 活動抑制や経費削減努力で販管費減少

## ■ IT

- ITサービス分野は病院向けを中心にCOVID-19の影響を受けたが、ネットビジネス分野の電子コミックサービスは、読者層の拡大を背景に好調に推移

## ■ その他

- 東証JASDAQグロース市場に上場しているJ-TEC\*をTOBにより子会社化し、期末のBS（貸借対照表）に反映

## ◆ 営業外損益 [前年度対比]

(億円)

	19年度	20年度	差異
受取利息	9	7	-2
受取配当金	14	13	-1
持分法による投資利益	20	25	+6
為替差益	11	-	-11
デリバティブ評価益	0	23	+23
その他	13	15	+2
営業外収益 計	68	83	+15
支払利息	37	28	-9
為替差損	-	36	+36
デリバティブ評価損	22	-	-22
投資事業組合運用損	3	10	+7
その他	25	21	-3
営業外費用 計	87	96	+9
営業外損益 計	-19	-13	+6

## ◆ 特別損益 [前年度対比]

(億円)

	19年度	20年度	差異
固定資産売却益	2	18	+17
投資有価証券売却益	60	26	-34
段階取得に係る差益	-	20	+20
その他	5	0	-5
特別利益 計	67	65	-2
固定資産除売却損	27	22	-5
投資有価証券評価損	1	10	+9
減損損失	110	441*	+331
事業構造改善費用	42	1	-41
その他	14	34	+19
特別損失 計	195	508	+313
特別損益 計	-128	-443	-315

\* 炭素繊維事業の固定資産に係る減損損失392億円他

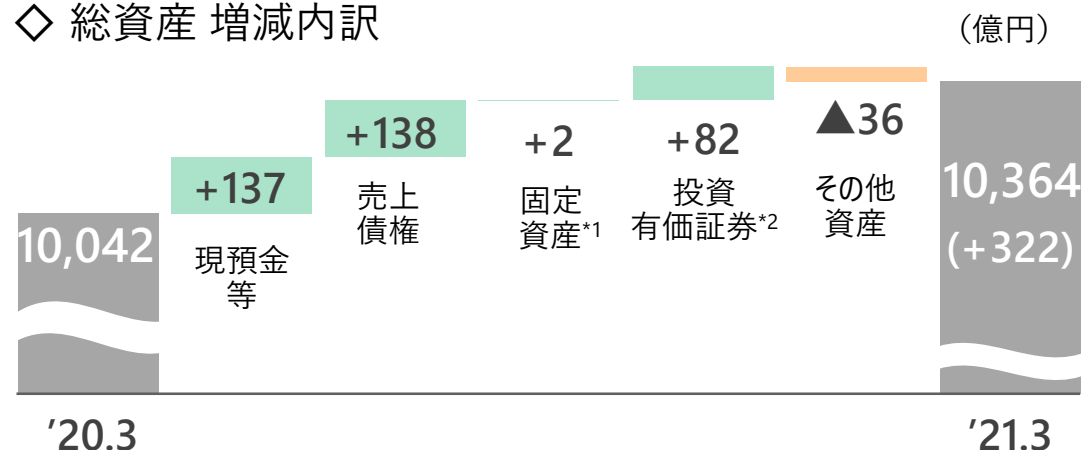
## ◆ 財政状態 [前年度末対比]

	(億円)			内 為替 換算影響
	20年 3月末	21年 3月末	差異	
総資産	10,042	10,364	+322	+225
負債	5,928	6,082	+154	+88
(内 有利子負債)	3,819	3,800	-19	+42
純資産	4,114	4,283	+168	+137
D/Eレシオ	0.97	0.94	-0.03	-
現預金等	1,565	1,702	+137	

## ◆ キャッシュ・フローの状況 [前年度対比]

	(億円)		
	19年度	20年度	差異
営業活動	942	1,077	+135
投資活動	-679	-796	-117
フリー・キャッシュ・フロー	263	281	+19
財務活動他	-104	-180	-75
現金及び現金同等物増減	159	102	-57

## ◇ 総資産 増減内訳



## ◇ BS換算レート

	20年 3月末	21年 3月末
円/米ドル	109	111
円/ユーロ	120	130

\*1 減損▲441、のれん計上 (J-TEC+151、CSP-Victall+46)、為替差+102、ほか

\*2 保有株式時価の上昇等

## 2. 2021年度業績見通し・中期経営計画について

## 2020年度（中計初年度）

- 上期を中心にマテリアルにおいてCOVID-19影響を大きく受け、炭素繊維事業を中心に収益計画に変更
- グリーンリカバリーの潮流、ニューノーマル下において、帝人の取り組むマテリアリティ（重要課題）に変更なし
- 中期の方向性を不変とし、成長基盤確立期としての投資を実行

## 2021年度（中計2年目）

- COVID-19再拡大による見通し不透明感は継続するも、ワクチン接種普及等により2019年度並みの水準まで経済が回復する見込み
- マテリアル及び繊維・製品事業ではCOVID-19影響から回復継続。ヘルスケア及びIT事業は引き続き堅調な状況を想定
- 中長期目標達成をめざし、成長投資を継続





# 設備投資、M&Aの推進状況

## 3つのソリューション領域とStrategic Focus関連分野への積極投資を推進中

### マテリアル

- アラミド・CSP中心に成長投資を継続
- コストダウンを原資にオートメーション化も実施

- 欧州サステナブル先端技術開発センター新設 (オランダ)
- アドバンスト・テクノロジー・センター開設 (米国)
- GF-SMC\*1 成形設備新設 (チェコ)
- フローディアへの出資：半導体メモリー開発 (日本)

- 米国ベンチャーキャピタルファンドに出資：医療機器  
⇒FY2021以降本格化
- 中国創薬ベンチャー TransTheraとの共同研究

- 訪問看護事業の新会社設立
- 資本・業務提携 (提携先：関連事業)
  - PREVENT：地域包括ケアシステム関連新事業
  - ビズジーン：ウイルス濃縮デバイス商業化
  - 3sunny：入退院支援業務
  - CTBE：人工靱帯量産化
  - ミルテル：医療機関を介した血液検査による未病検査

- CSPテキサス工場立ち上げ (米国)  
(約70百万USD)  
⇒ FY2019までに大半投入済
- CSP-Victall 100%子会社化 (中国)  
(49億円)
- 炭素繊維新工場立ち上げ (米国)
- アラミド繊維設備増強 (オランダ)
- CSP新規プログラム獲得による投資 (米国)

J-TEC 子会社化  
(192億円\*2)

FY2021

FY2022

地域包括ケア拡大への新たなM&A機会探索

- 武田薬品糖尿病治療薬販売承継  
(1,330億円\*3) →大型投資の実行
- ジョリーグッドとの共同開発：うつ病治療補助システム

ヘルスケア・マテリアル協創分野

### ヘルスケア

- 「フェブリク」クリフのオフセットおよび将来の総合ヘルスケアサービス拡大の礎となる大型投資を実施
- Strategic Focus投資は将来の製品・サービス拡充に向けた出資・業務提携を推進

\*1 GF-SMC : Glass Fiber-Sheet Molding Compound

\*2 買付金額

\*3 譲渡価額 (製品在庫の譲渡価額含む)

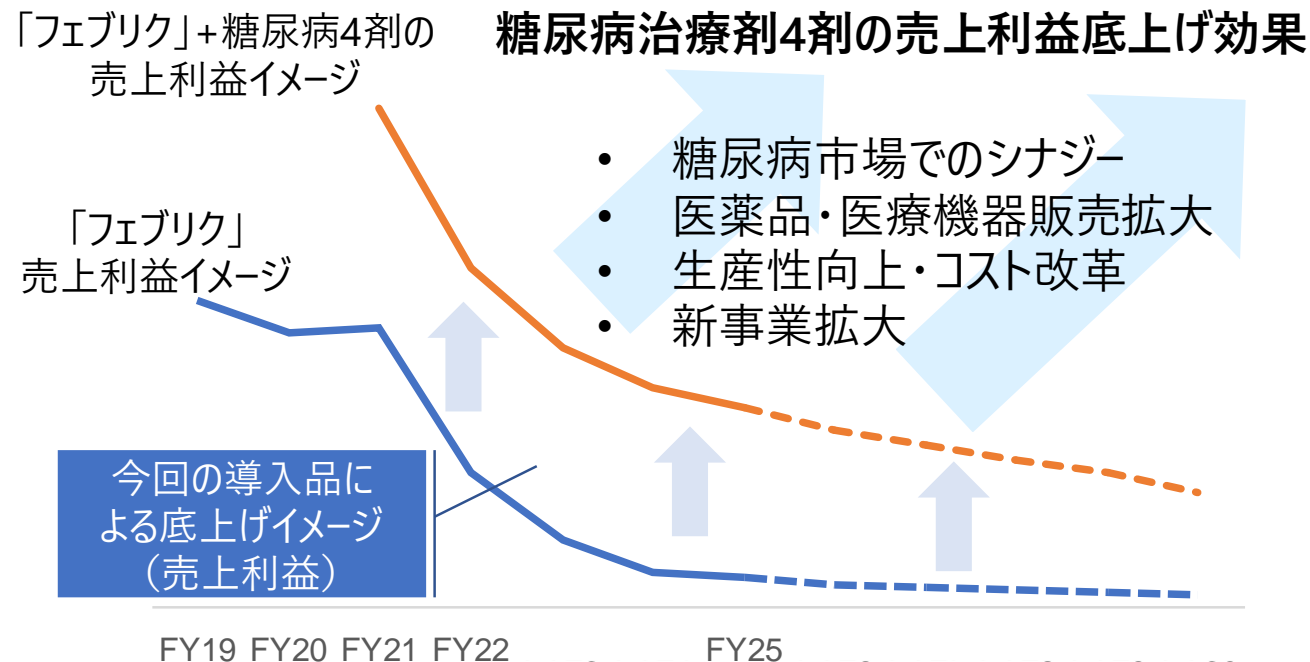


## ◆武田薬品糖尿病治療薬販売承継

契約当事者	武田薬品工業株式会社 帝人株式会社 帝人ファーマ株式会社
契約骨子	対象製品の日本における販売移管 特許等知的財産権実施許諾、及び 製造販売承認の承継
契約締結日	2021年2月26日
資産譲渡 実行日	2021年4月1日
譲渡価額	1,330億円 (製品在庫の譲渡価額含む)

## 対象製品概要 (2型糖尿病治療薬DPP-4阻害剤とその配合剤)

対象製品	ネシーナ®錠 6.25mg、12.5mg、25mg (2010年6月上市) リオベル®配合錠HD、LD (2011年9月上市) イニシンク®配合錠 (2016年11月上市) ザファテック®錠 25mg、50mg、100mg (2015年3月上市、2019年12月上市 (25mg錠) )
対象製品の 位置づけ	インスリン分泌を促す物質の作用を強める 経口血糖低下薬及びその配合剤 国内外で2型糖尿病の患者さんの治療に 使用されている薬剤
国内売上高	約308億円(2019年度、4剤合計)



- 2021年4月1日より帝人ファーマにて販売開始
- 期待効果
  - ✓ 「フェブリク」処方先における販売でのシナジー
  - ✓ 糖尿病に合併する疾患（骨粗鬆症、睡眠時無呼吸症候群、心不全等）での医薬品・在宅医療機器（CPAP/HOT等）へのシナジー
  - ✓ 地域包括ケア戦略における予防・重症化予防の取り組みへの展開加速
  - ✓ 安定的な収益を生み出せる構造への変革

## ◆ (株) ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング子会社化

### 対象会社概要

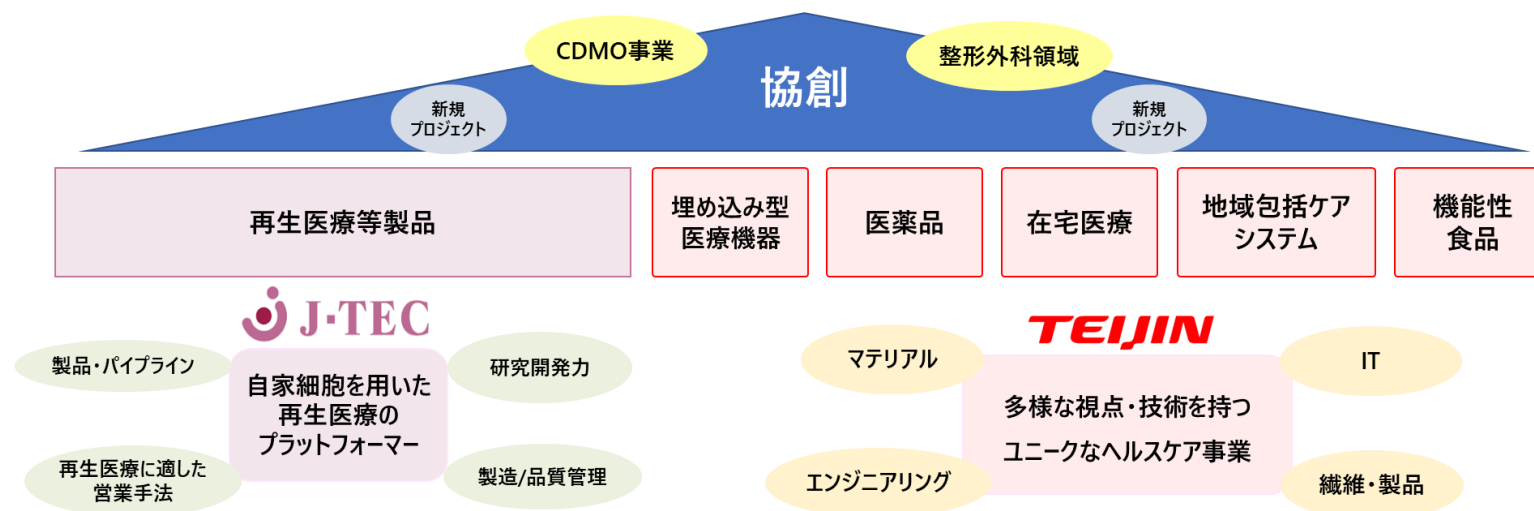
設立年	1999年
主要事業	1. 再生医療製品事業 主要製品：自家培養表皮ジェイス® 自家培養軟骨ジャック® 2. 再生医療受託事業 3. 研究開発支援事業
本社・拠点	愛知県蒲郡市
売上高	23億円 (2020年度)
営業利益	▲5億円 (2020年度)
社員数	約200名 (2020年9月末時点)

### TOB結果の概要

市場	東証JASDAQグロス (証券コード7774)
期間	2021年2月1日～3月2日
買付価格	820円/株
買付株数	57.72% (23,439,173株)
買付金額	192億円
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 富士フイルム(株)(保有株式割合50.13%)と公開買付応募契約を締結</li> <li>✓ J-TEC社取締役会は本公開買付けに賛同、また帝人はJ-TEC社と資本業務提携契約を締結</li> </ul>

### われわれが目指すもの

患者さんひとりひとりの状態・ニーズに合わせた  
テーラーメイド治療ソリューションのラインナップを揃えることにより、  
安全で効率的、かつ患者さんの満足度が高い医療を提供する



- ヘルスケア・マテリアル事業での技術・事業基盤やエンジニアリング力のシナジーにより、再生医療等製品\*事業の拡大を目指す
- 「コーポレートビジネスインキュベーション部門」を設立し、コーポレート組織の中で事業運営することで協創領域を育成
- 両社協業による事業計画を策定予定

\*再生医療等製品：組織（皮膚、軟骨、角膜等を含む）移植、細胞治療、遺伝子治療（CAR-T細胞療法等を含む）を含む保険内治療に供する製品

## 2021年度短期経営計画 基本方針

「成長基盤確立」に向けた主要課題に取り組み、  
COVID-19前の水準からの成長、さらには、中期目標達成への道筋をつける

### 1. 戦略的重点投資/Strategic Focus

マテリアル

ヘルスケア

- 自動車向け複合成形材料のシェア拡大と収益性向上
- 航空機向け炭素繊維中間材料の開発を継続
- 新事業（食、地域包括ケア関連、革新的治療法創出）の基盤確立
- 大型投資のシナジー効果最大化に向けた取り組みの推進

### 2. 収益基盤強化/Profitable Growth

マテリアル

ヘルスケア

- アラミド繊維生産能力増強・増販によるリーダーポジション確立
- 炭素繊維航空機向け需要の低迷に対する収益改善策の実行
- 地域密着型の多職種によるチーム営業体制の構築
- 糖尿病薬を含む主力製品・サービスの売上拡大と新規製品の開発推進

### 3. 環境対応/イノベーション

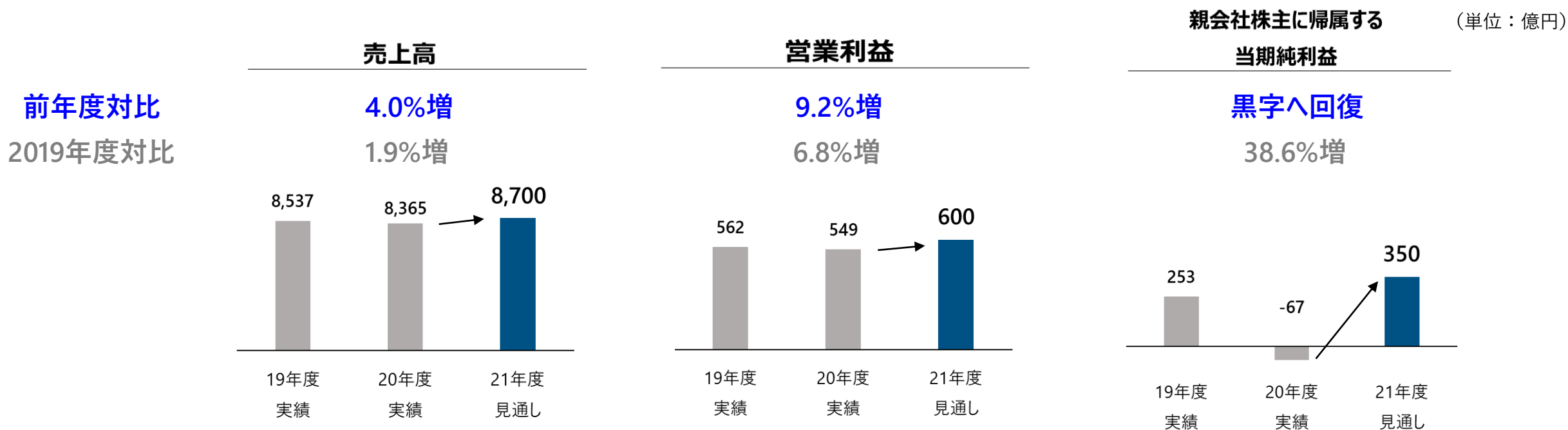
環境貢献

イノベーション加速

- 環境価値ソリューション提供拡大による気候変動の緩和
- 帝人素材・技術を活用したサーキュラーエコノミー実現への貢献
- 組織改革・協創・DX・D&I推進によるイノベーション創出強化

◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比・2019年度対比]

- マテリアルのCOVID-19影響からの自動車用途を中心とした回復や、ヘルスケアにおける「フェブリク」・CPAP販売増および武田薬品より承継した糖尿病治療薬の貢献により、前年度対比増収・増益の見通し
- COVID-19前の2019年度実績に対しても、売上高、営業利益、当期純利益ともに増加の見通し



前提条件		20年度	21年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	106	105
	円/ユーロ	124	125
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		44	60

2021年度配当金見通し：  
 中間 27.5円/株 期末 27.5円/株 年間 55円/株  
 (20年度：中間 25円/株 期末25円/株 年間50円/株)

## ◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、2019年度対比]

(億円)	20年度 実績	21年度 見通し	前年度 との差異	増減率	19年度 実績	19年度実績 との差異	増減率
売上高	8,365	8,700 <sup>*5</sup>	+335	+4.0%	8,537	+163	+1.9%
営業利益	549	600	+51	+9.2%	562	+38	+6.8%
経常利益	537	600	+63	+11.8%	543	+57	+10.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	-67	350	+417	-	253	+97	+38.6%
ROE <sup>*1</sup>	-1.7%	8%	+10%		6%	+2%	
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	8.6%	7% <sup>*6</sup>	-2%		9%	-2%	
EBITDA <sup>*3</sup>	1,068	1,300	+232		1,072	+228	
フリー・キャッシュ・フロー	281	-1,300 <sup>*7</sup>	-1,581		263	-1,563	
設備投資 <sup>*4</sup>	603	2,100 <sup>*7</sup>	+1,497		686	+1,414	
減価償却費	518	700	+182		510	+190	
研究開発費	327	340	+13		345	-5	

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷投下資本\*」にて算出（\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

\*3 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*4 設備投資には無形固定資産を含む（のれんを除く）（糖尿病薬販売権等承継1,322億円を含む）

\*5 日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

\*6 21年度見通し期首の投下資本に糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

\*7 糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,322億円）含む

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

	(億円)				
	19年度 実績	20年度 実績	21年度 見通し	前年度 との差異	増減率
売上高					
高機能材料	2,364	2,104	2,300	+196	+9.3%
複合成形材料	912	866	1,100	+234	+27.1%
マテリアル 計	3,275	2,970	3,400	+430	+14.5%
ヘルスケア	1,539	1,487	1,800	+313	+21.1%
繊維・製品	3,063	3,149	2,650*	-499	-15.8%
IT	486	581	650	+69	+11.9%
その他	174	178	200	+22	+12.1%
合計	8,537	8,365	8,700	+335	+4.0%
営業利益					
マテリアル	158	10	110	+100	-
ヘルスケア	326	315	400	+85	+26.9%
繊維・製品	54	175	70	-105	-60.0%
IT	78	104	100	-4	-3.9%
その他	3	-2	-20	-18	-
消去又は全社	-58	-52	-60	-8	-
合計	562	549	600	+51	+9.2%

\* 日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

## ■ マテリアル

炭素繊維は回復に時間が掛かるも、その他の事業分野は大幅な回復を見込む

- アラミド
  - 自動車向け中心に販売量回復
  - 大型定修あり／のれん償却20年度で終了
- 樹脂
  - 付加価値品販売増
  - 原料価格上昇に対し販売価格改定推進
- 炭素繊維
  - 需要旺盛な用途への対応推進
  - 北米新工場立ち上げ準備継続
- 複合成形材料
  - SUVやピックアップ向け販売好調
  - 生産性向上の取り組み及び先行投資継続

## ■ ヘルスケア

医薬・在宅医療で既存製品の好調継続や大型投資の効果発現を見込む

- 医薬・在宅医療
  - 「フェブリク」・CPAP数量増
  - 薬価改定影響あり
  - 糖尿病治療薬が貢献
- 新事業
  - 販売増も収益化への取り組み継続

## ■ 繊維・製品

前年度医療用ガウン収益計上の反動あり  
コスト構造改革で基礎収益力向上

## ■ IT

電子コミックが好調に推移  
本社移転費用あり

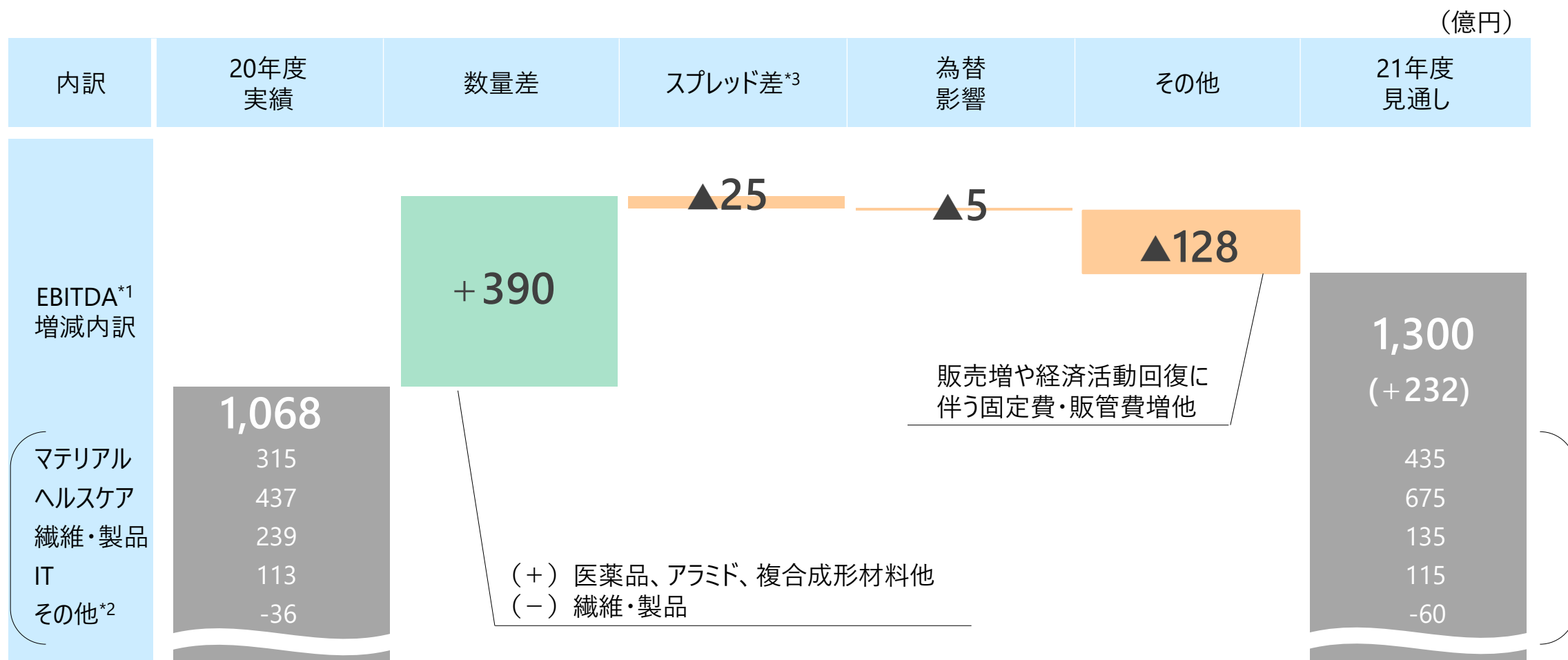
## ■ その他

J-TECののれん償却を含む損益計上開始



## 2021年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

- マテリアルの自動車用途を中心とした回復やヘルスケアの糖尿病治療薬の貢献等により、EBITDAは大幅増を見込む

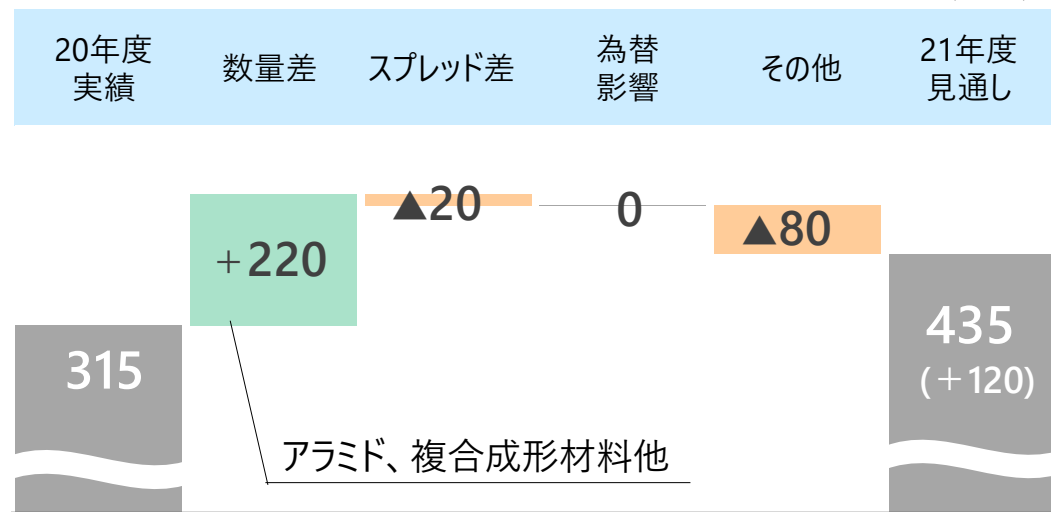


\*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 \*2 その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている \*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

## 2021年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

## ◆マテリアル

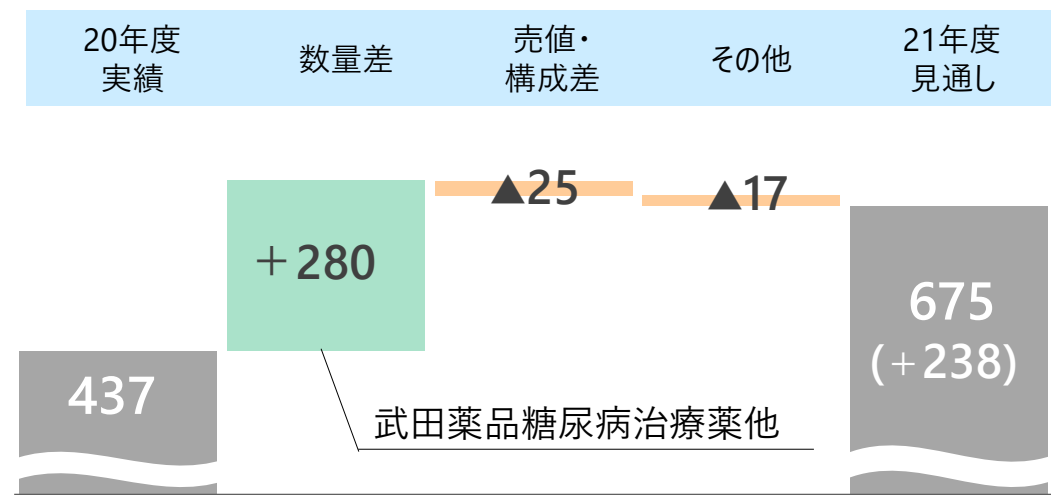
(億円)



- 数量差  
各分野（アラミド、樹脂、炭素繊維、複合成形材料）で需要回復により増加
- スプレッド差  
売値・構成差はアラミドの販売構成悪化等で減少、各分野で原燃料の単価上昇を見込む
- その他  
販売増や経済活動回復に伴う固定費や販管費増他

## ◆ヘルスケア

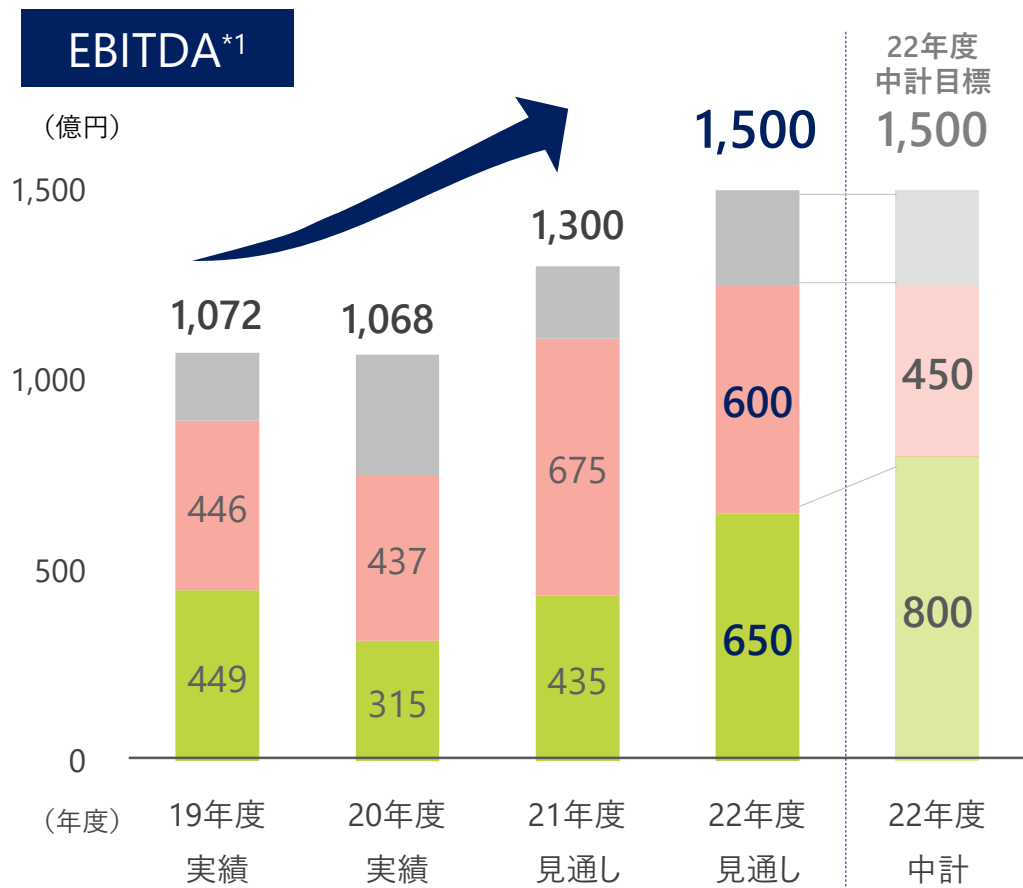
(億円)



- 数量差  
各分野（医薬品（糖尿病治療薬他）、在宅医療、新規事業）で増加
- 売値・構成差  
薬価改定影響による減少
- その他  
販売増に伴う販管費増や先行投資他



- ◆ 業績指標
  - 2020年度のEBITDAはCOVID-19の中2019年度水準を維持。2021年度は大型投資により2019年度対比大幅増の見通し
  - 2022年度目標であるEBITDA 1,500億円、ROE 10%以上、営業利益ROIC 8%以上を引き続き目指す
  - 事業環境の変化により、2022年度EBITDAの事業別貢献内訳を変更



**ヘルスケア** 22年度見通し **600**億円 (中計 450億円)  
武田薬品糖尿病治療薬販売承継が大きく寄与することを反映

**マテリアル** 22年度見通し **650**億円 (中計 800億円)  
COVID-19影響で、炭素繊維事業を含む各事業で計画遅延が生じたことを反映

	19年度実績	20年度実績	21年度見通し	22年度中計目標	
<b>ROE<sup>*2</sup></b>	6.3%	-1.7%	8%	<b>10%以上</b>	変更なし
<b>営業利益ROIC<sup>*3</sup></b>	8.7%	8.6%	7% <sup>*4</sup>	<b>8%以上</b>	変更なし

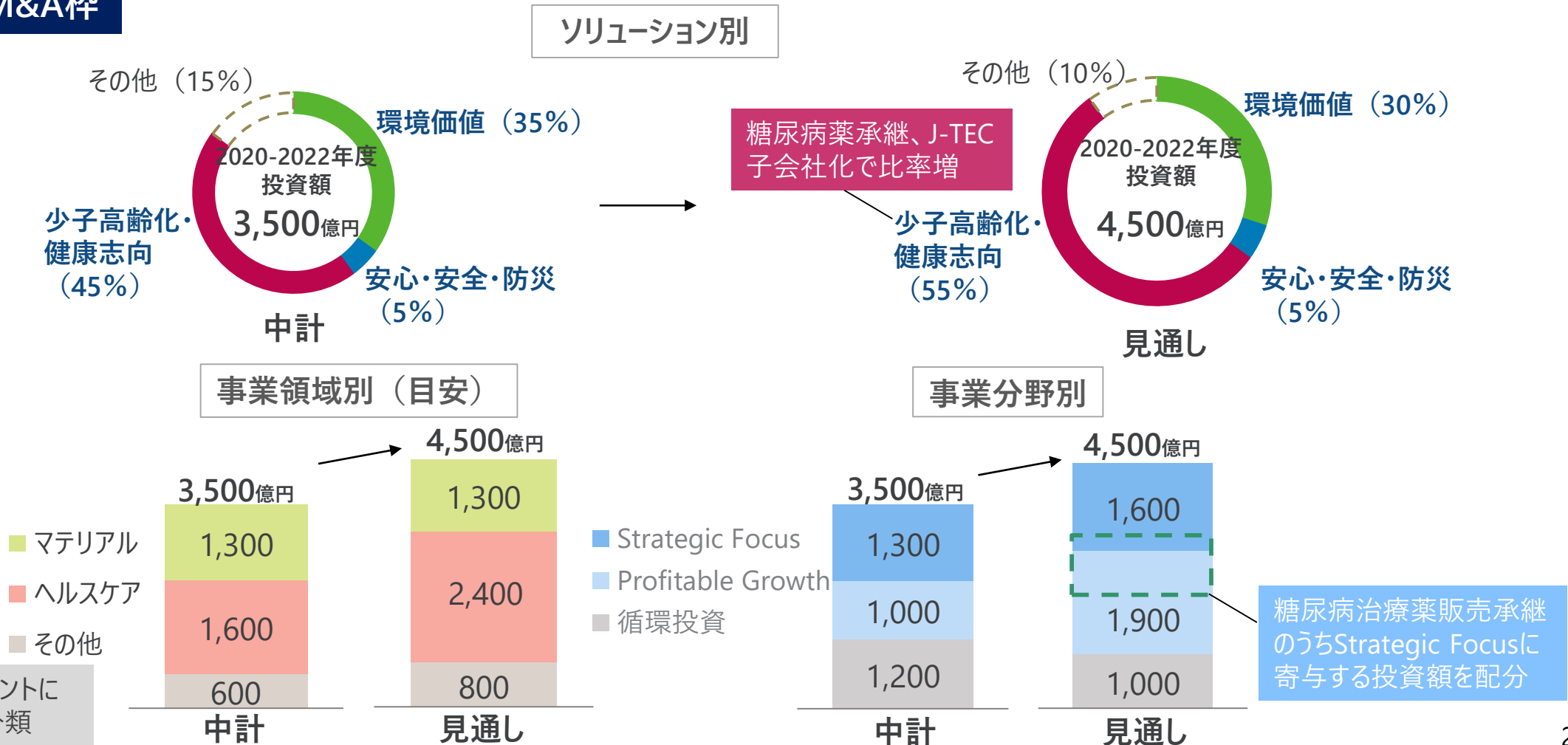
■ マテリアル ■ ヘルスケア ■ その他

\*1 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出  
 \*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出  
 \*3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出 \*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金  
 \*4 21年度見通し期首の投下資本に糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 投資方針

- **Strategic Focus分野への積極投資方針は不変**
- EBITDA目標を達成するために、投資額を中計3,500億円から4,500億円に拡大
- 投資原資としての負債増加により一時的に財務体質は悪化するも、「D/Eレシオ目安0.9」の水準までの早期改善を目指す

設備投資 + M&A 枠



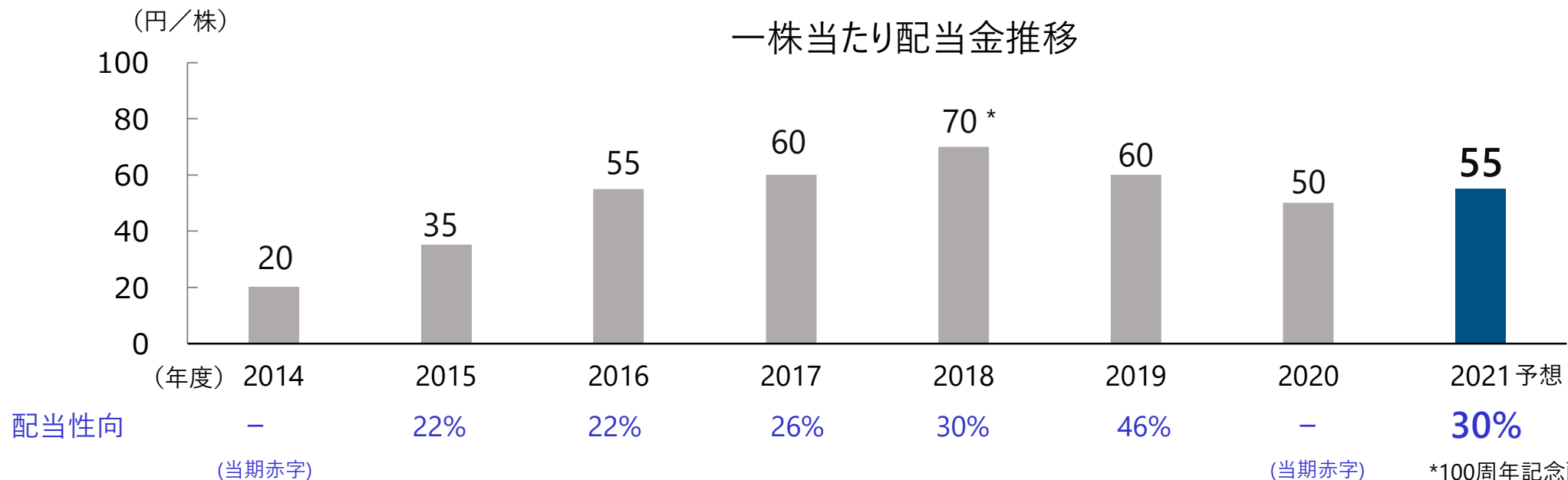
## ◆ 株主還元方針

「成長投資」へキャッシュ・フローを優先配分  
安定配当を基本とし、状況に応じた機動的な自社株取得

- キャッシュ・フローは、「財務体質の健全性」（D/Eレシオ0.9が目安）を維持しながら、「将来の成長に向けての投資」に優先的に配分
- 「安定的・継続的な配当」にも配慮し、状況に応じて自己株式取得等も機動的に実施
- 「業績に連動した配当」により利益成長に則した増配を目指し、中期的な配当性向は、「当期純利益の30%」目安

積極投資を推進しながらも還元方針に変更なし

2021年度の配当は増益を反映し前期対比+5円の55円/株を予定

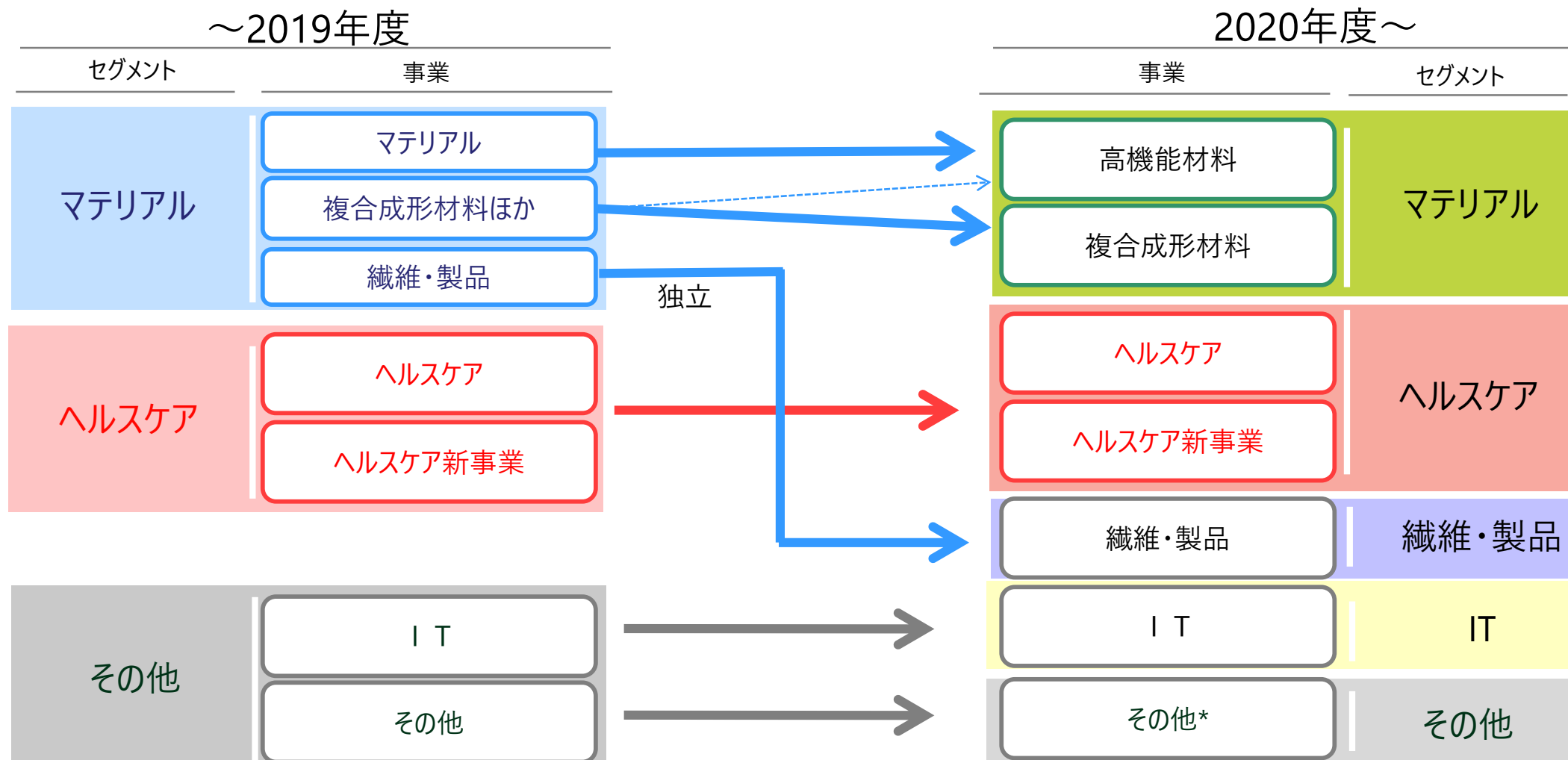


注) 2016年10月1日をもって普通株式5株を1株に併合。配当金は株式併合の影響を踏まえて換算

### 3. 参考資料

## 開示セグメントの変更

- 2020年度より、マテリアルセグメントから「繊維・製品」を、その他から「IT事業」を独立させた新セグメントへ



\* 20年度末より連結したJ-TECは「その他」に含む

## 定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"><li>アラミドは2021年度1Qに大型定修（3年に1度）</li><li>樹脂は毎年2Q、3Qに定修</li></ul>
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"><li>4Qに経費集中傾向</li></ul>
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none"><li>衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン</li></ul>
IT	<ul style="list-style-type: none"><li>2Q、4Qはシステム検収時期で納入増</li></ul>

### 【2021年度見通しにおける特有の要因】

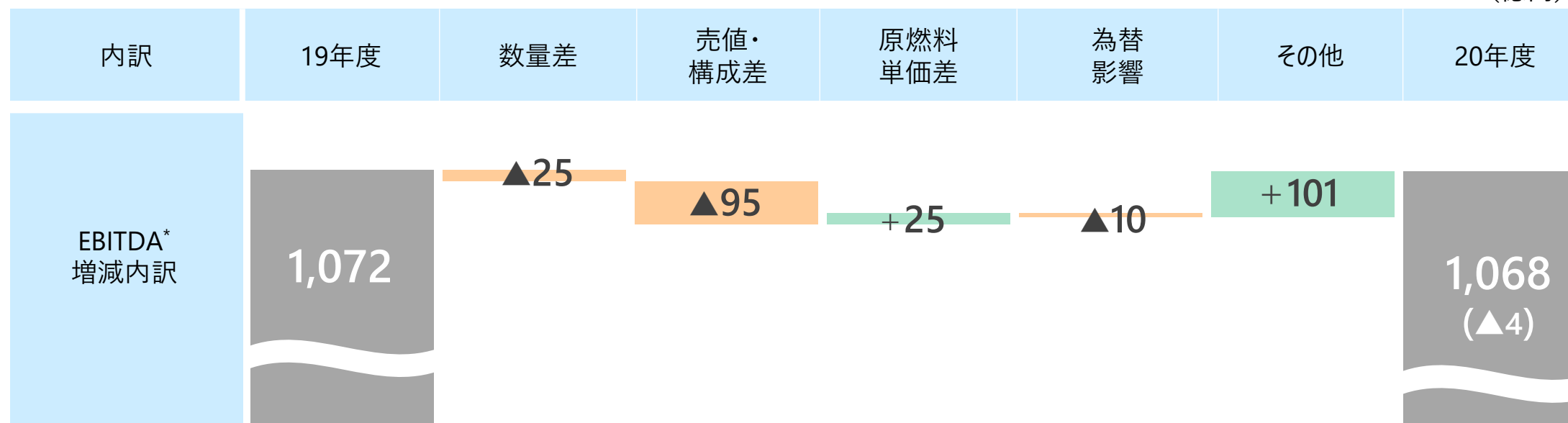
- マテリアル、繊維・製品において自動車用途を中心にCOVID-19影響からの回復傾向有り

## ◆ EBITDA\*増減 (連結合計) [前年度対比]

(億円)

	19年度	20年度	差異	増減率
売上高	8,537	8,365	-172	-2.0%
EBITDA	1,072	1,068	-4	-0.4%
減価償却費	510	518	+9	+1.7%
営業利益	562	549	-13	-2.3%
営業利益ROIC	8.7%	8.6%	-0.1%	

(億円)



\*「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年度対比 (累計)]

	19年度実績					20年度実績					(億円)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	差異	増減率
売上高												
高機能材料	633	624	556	550	2,364	438	476	544	647	2,104	-259	-11.0%
複合成形材料	228	231	229	224	912	101	248	252	264	866	-46	-5.1%
マテリアル 計	861	854	786	774	3,275	539	724	796	910	2,970	-306	-9.3%
ヘルスケア	398	391	403	347	1,539	362	369	388	368	1,487	-53	-3.4%
繊維・製品	738	804	772	749	3,063	716	865	790	778	3,149	+86	+2.8%
IT	109	122	112	143	486	135	150	137	158	581	+95	+19.6%
その他	40	42	41	50	174	39	42	45	53	178	+5	+2.7%
合計	2,146	2,214	2,114	2,063	8,537	1,791	2,150	2,156	2,268	8,365	-172	-2.0%
営業利益												
マテリアル	56	46	29	28	158	-14	9	2	13	10	-149	-94.0%
ヘルスケア	105	89	97	34	326	87	78	93	57	315	-10	-3.2%
繊維・製品	10	18	14	12	54	51	76	36	12	175	+121	+223.3%
IT	13	23	19	23	78	20	27	21	35	104	+26	+32.9%
その他	-0	3	-1	2	3	-4	1	2	-1	-2	-6	-
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-58	-14	-6	-13	-19	-52	+5	-
合計	170	168	145	80	562	126	185	142	97	549	-13	-2.3%



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比 及び 直前四半期対比]

	19年度				20年度				差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	20/4Q -19/4Q	20/4Q -20/3Q
売上高										
高機能材料	633	624	556	550	438	476	544	647	+96	+102
複合成形材料	228	231	229	224	101	248	252	264	+40	+11
マテリアル 計	861	854	786	774	539	724	796	910	+136	+114
ヘルスケア	398	391	403	347	362	369	388	368	+21	-20
繊維・製品	738	804	772	749	716	865	790	778	+29	-11
IT	109	122	112	143	135	150	137	158	+16	+21
その他	40	42	41	50	39	42	45	53	+3	+8
<b>合計</b>	<b>2,146</b>	<b>2,214</b>	<b>2,114</b>	<b>2,063</b>	<b>1,791</b>	<b>2,150</b>	<b>2,156</b>	<b>2,268</b>	<b>+205</b>	<b>+112</b>
営業利益										
マテリアル	56	46	29	28	-14	9	2	13	-15	+11
ヘルスケア	105	89	97	34	87	78	93	57	+22	-37
繊維・製品	10	18	14	12	51	76	36	12	+0	-24
IT	13	23	19	23	20	27	21	35	+12	+14
その他	-0	3	-1	2	-4	1	2	-1	-2	-2
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-14	-6	-13	-19	-0	-7
<b>合計</b>	<b>170</b>	<b>168</b>	<b>145</b>	<b>80</b>	<b>126</b>	<b>185</b>	<b>142</b>	<b>97</b>	<b>+17</b>	<b>-45</b>

## ◆ 連結損益計算書 四半期推移

(億円)

	19年度				20年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,146	2,214	2,114	2,063	1,791	2,150	2,156	2,268
売上原価	1,470	1,534	1,461	1,438	1,194	1,484	1,522	1,614
売上総利益	677	680	653	624	597	666	634	653
販管費	507	512	509	544	471	481	492	556
営業利益	170	168	145	80	126	185	142	97
営業外損益	-1	-6	-1	-11	-1	-7	-15	11
(内 金融収支)	-1	-5	-4	-4	-1	-3	-2	-2
(内 持分法投資損益)	4	7	2	8	2	12	5	7
経常利益	169	162	144	69	124	178	126	108
特別損益	-18	-23	6	-93	-14	-11	33	-451
税金等調整前四半期純利益	151	139	150	-24	110	167	160	-343
法人税等	40	37	47	21	48	57	44	-13
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	5	5	4	5	7	7	5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	97	97	-49	57	103	108	-335

## ◆ 連結貸借対照表 四半期推移

(億円)

	18年度	19年度				20年度			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
資産									
流動資産	5,239	5,116	5,255	5,280	5,053	5,026	5,131	5,074	5,346
固定資産	4,968	4,910	5,052	5,139	4,989	5,024	5,055	5,128	5,018
合計	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,202	10,364
負債・純資産									
負債	5,934	5,860	6,103	6,065	5,928	5,880	5,837	5,739	6,082
(内 有利子負債)	3,692	3,743	4,076	3,982	3,819	3,914	3,873	3,628	3,800
純資産	4,272	4,166	4,204	4,354	4,114	4,169	4,348	4,463	4,283
合計	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,202	10,364

## ◆ セグメント別経営指標 [前年度対比、2019年度対比]

(億円)

	20年度 実績	21年度 見通し	前年度 との差異	19年度 実績	19年度実績 との差異
EBITDA <sup>*1</sup>					
マテリアル	315	435	+120	449	-14
ヘルスケア	437	675	+238	446	+229
繊維・製品	239	135	-104	124	+11
IT	113	115	+2	87	+28
その他	7	0	-7	13	-13
消去又は全社	-43	-60	-17	-46	-14
<b>合計</b>	<b>1,068</b>	<b>1,300</b>	<b>+232</b>	<b>1,072</b>	<b>+228</b>
営業利益ROIC <sup>*2</sup>					
マテリアル	0%	3%	+3%	5%	-2%
ヘルスケア	41%	18% <sup>*3</sup>	-23%	41%	-23%
繊維・製品	14%	6%	-8%	4%	+2%
IT	66%	67%	+1%	49%	+18%
<b>合計</b>	<b>8.6%</b>	<b>7%<sup>*3</sup></b>	<b>-2%</b>	<b>8.7%</b>	<b>-2%</b>

\*1 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出 (\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*3 21年度見通し期首の投下資本に糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

## ◆ 主要経営指標推移

	16年度 実績	17年度 実績 <sup>*6</sup>	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 見通し
ROE <sup>*1</sup>	15.7%	12.5%	11.2%	6.3%	-1.7%	8%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	10.0%	11.2%	9.3%	8.7%	8.6%	7% <sup>*7</sup>
EBITDA <sup>*3</sup> (億円)	958	1,155	1,076	1,072	1,068	1,300
1株当たり当期純利益 (円) <sup>*4</sup>	254.9	231.3	232.4	131.6	-34.7	177.8
1株当たり配当金 (円) <sup>*4</sup>	55	60	70 <sup>*</sup>	60	50	55
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	9,641	9,820	10,207	10,042	10,364	11,700
有利子負債 (億円)	3,762	3,442	3,692	3,819	3,800	5,000
D/Eレシオ <sup>*5</sup>	1.11	0.88	0.90	0.97	0.94	1.1
自己資本比率	35.1%	40.0%	40.2%	39.3%	39.2%	38%

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出 (\*投資家資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

\*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

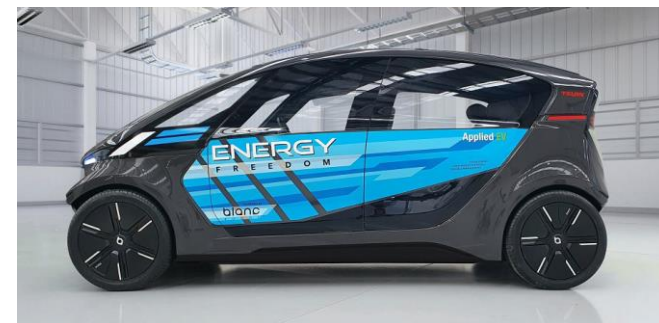
\*6 『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

\*7 21年度見通し期首の投下資本に糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

## ◆ 2021年4月までのニュースリリースまとめ

## マテリアル

- 水素燃料電池の販売でカーボンニュートラルに貢献 水素燃料電池の販売代理契約を締結
- 近未来モビリティに向けて 豪AEV社とモビリティ向けパーツ・ソーラールーフ・LS-EVプロトタイプを開発
- 複合成形材料事業の欧州拠点を強化 チェコ拠点にGF-SMC成形設備を新設
- 航空機・人工衛星に使用する技術をスポーツ用途へ！ 炭素繊維中間材料の新ブランドを展開
- パラ系アラミド「トフロン」のエコデータシートを公表
- EcoVadis社のサステナビリティ調査において5年連続で「ゴールド評価」を獲得！
- ポリエステルのケミカルリサイクル技術に関するライセンスに向けた3社共同協議書の締結について



共同開発したLS-EVプロトタイプ

## 繊維・製品

- センシング技術の活用で毎日の睡眠状態を管理 睡眠サービス「Sleep Concierge」を共同開発
- 快適で安全な医療用ガウンの共同開発を開始
- 超軽量天井材の新用法による吸音効果を確認
- ポリエステル立体成形吸音材がトヨタ自動車の新型「MIRAI（ミライ）」に採用
- リサイクルポリエステル使用のナノファイバー量産化技術を開発



着用試験に使用する医療用ガウン

## ◆ 2021年4月までのニュースリリースまとめ

## ヘルスケア

- 「心・血管修復パッチ」臨床試験の被験者登録が完了
- 2型糖尿病治療剤「ネシーナ®錠」、「リオベル®配合錠」、「イニシク®配合錠」、「ザファテック®錠」の日本における販売移管、知的財産権実施許諾及び製造販売承認の承継に係る資産譲渡契約の締結に関するお知らせ
- 地域包括ケアシステム関連の新事業創出を目指して 株式会社3Sunnyとの資本・業務提携について
- 「オスタバロ皮下注カートリッジ 3mg」の製造販売承認を取得

販売名	オスタバロ皮下注カートリッジ 3 mg
一般名	アバロパラチド酢酸塩
剤形	水性注射剤（カートリッジ剤）
効能・効果	骨折の危険性の高い骨粗鬆症

- 帝人ファーマは、本剤について、骨折の危険性の高い骨粗鬆症を効能・効果として、2021年3月23日に厚生労働省より製造販売承認を取得しました。なお、本剤は、新医薬品の処方日数制限に対応する製剤を開発中であるため、現時点において上市時期は未定です
- 帝人グループのヘルスケア事業は、既に骨・関節領域において「ワンアルファ」「ボナロン」などの骨粗鬆症治療剤や、超音波骨折治療器「セーフス」、埋込型医療材料を展開しています。今後も革新的治療法の創出を進めます
- 国内初、膈内の調子を整える機能性表示食品サプリを発売
- 2型糖尿病治療剤の日本における販売移管完了に関するお知らせ
- VRを利用したうつ病の治療補助システムの開発に向けて (株)ジョリーグッドと共同開発契約を締結

## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	19年度					20年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	99	100	105	82	386	87	89	96	83	356
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	25	24	24	21	94	21	21	23	18	83
ベニロン®	重症感染症治療剤	16	15	17	13	62	14	12	14	10	50
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 膝・神経内分泌腫瘍治療剤	11	12	12	12	47	13	13	14	12	52
ムコソルバン®	去痰剤	9	8	10	7	34	6	5	7	5	22
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	6	5	6	4	21	5	6	5	5	21
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	4	4	4	3	15	3	3	3	2	10
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3	3	2	11
ラキシベロン®	緩下剤	3	3	3	2	11	2	2	2	2	8
トライコア®	高脂血症治療剤	1	1	1	1	5	1	1	1	1	4

\*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp &amp; Dohme Corp. (米)の登録商標です。

\*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。



## ◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2021年3月末現在)

\* 承認／新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	承認申請	承認／ 新規上市*
骨・関節 領域	TCK-276			NT 201L <sup>*1</sup>	NT 201 <sup>*2</sup> ITM-058 <sup>*3</sup>
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TMX-67HK			ITM-014T <sup>*4</sup>
その他		JTR-161	GGs-MPA <sup>*5</sup>		

\*1 「ゼオメイン」の適応拡大として、2020年8月に「下肢痙縮」の適応追加に対する一部変更承認申請を実施

\*2 2020年6月に「上肢痙縮」に対する製造販売承認を取得し、12月に販売開始

\*3 2021年3月に「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」に対する製造販売承認を取得。なお、新医薬品の処方日数制限に対応する製剤を開発中（上市時期は未定）

\*4 「ソマチリン」の適応拡大として、2020年12月に「甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍」に対する適応追加の承認を取得

\*5 「ベニロン」の適応拡大として開発中

## ◆ 新規開発医薬品 (2021年3月末現在)

## 【承認取得/上市\*】

\* 承認取得/上市は直近1年間を記載

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NT 201 (インコボツリヌス トキシンA)	上肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 2020年6月承認取得 2020年12月販売開始
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン 産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2020年12月承認取得
ITM-058 (アバロパラチド酢酸塩)	骨折の危険性の高い 骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 2021年3月承認取得*

\*新医薬品の処方日数制限に対応する製剤を開発中（上市時期は未定）

## ◆ 新規開発医薬品 (2021年3月末現在)

## 【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NT 201L (インコボツリヌス トキシンA)	下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 (効能・効果追加) 2020年8月承認申請

## ◆ 新規開発医薬品 (2021年3月末現在)

## 【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社（効能・効果追加）

## ◆ 新規開発医薬品 (2021年3月末現在)

## 【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序 (CRTh2拮抗作用) によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果 (軽症患者) や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果 (軽症～重症の患者) が期待される。	錠剤	導入： 米GB001社
TMX-67HK (フェブキシスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品 (効能・効果追加)
JTR-161	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髓由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

## ◆ 新規開発医薬品 (2021年3月末現在)

## 【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TCK-276	関節リウマチ	関節リウマチに特徴的なパンプス増生の主要細胞である滑膜線維芽細胞に直接作用して増殖を抑制することで抗リウマチ効果が期待される新たなクラスの経口治療薬。	錠剤	自社開発品

## ◆ 非財務情報 ESG外部評価

## GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



FTSE Blossom  
Japan

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



（注） MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

ESGへの取り組みが優れている企業として、  
2つの国内プログラムに選定

「なでしこ」

女性活躍推進



健康経営推進



## SRI（社会的責任投資）インデックスへの組み入れ

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



***TEIJIN***

*Human Chemistry, Human Solutions*